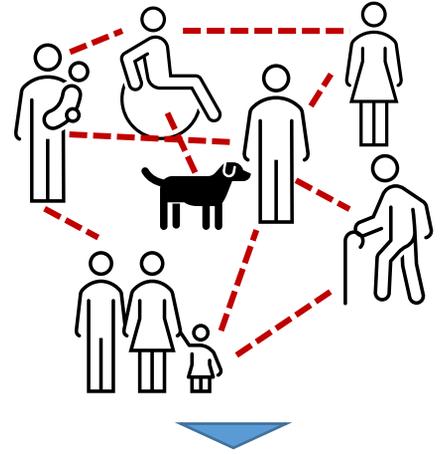


菊水健史（社会内分泌） 永澤美保（同調的共生） 茂木一孝（社会神経科学）  
久世明香（動物臨床行動学） 今野晃嗣（動物社会認知科学）  
石原淳子、小手森綾香（食のデータサイエンス）

## 研究の背景

- ・ イヌが介在することで、地域におけるヒトのつながりが生まれるといわれています。特に見知らぬ人との声かけは、地域社会におけるネットワークを高めそれを介して、ヒトのウェルビーイングが高まると考えられています。
- ・ しかし、これまでの調査は横断的アンケートに限られており、縦断的な測定による、イヌの効果調べたものはありません。
- ・ 今回、相模原市を中心に「イヌがヒトとヒトをつなぐ」しかけとして「わんわんマルシェ」の開催や、イヌをつれて行きやすいまちづくりを導入し、これによってウェルビーイングが高まるかの介入研究を行います。



ウェルビーイング

## アプローチ

- ・ 2023年に相模原市の地域のつながりやウェルビーイングのアンケート調査は終了しています。
- ・ 2024年には「麻布大学わんわんマルシェ」の開催や、イヌをつれて行きやすいまちづくり、ヒトとイヌの交流の場を設けていきます。
- ・ イベントの際に、地域のつながりやウェルビーイングの調査を実施します。
- ・ これを4年間ほど繰り返して、ウェルビーイングの経時的変化を明らかにします。



## 期待される結果

- ・ イヌの飼育や散歩が、ヒトのつながりを生むかを明らかにできます。
- ・ ヒトのつながりが地域における社会関係資本を高めるかがわかります。
- ・ 最終的には、世界でも最低レベルといわれる思春期から青年期の日本の若者のウェルビーイングを高めることにつながることを期待されます。

## 募集方法

- ・ 本実験は、研究参加者と緻密かつ丁寧なやり取りが求められます。
- ・ 根気強く調査を続ける継続性が求められます。
- ・ グループとして実施しますので、協力しながらできる力が必要になり、それが養われます。
- ・ ものすごいチャレンジングなテーマです。強い気持ちでやってみたい学生さん、是非どうぞよろしくおねがいします！

